

シンポジウム

「南北の共演」

- ①コンセプト・理念
- ②環境の工夫（ハード面）
- ③コストとパフォーマンス
- ④地域との連携
- ⑤持続可能な形に向けて

①コンセプト・理念（すずらん）

「すずらん」花言葉・・・「再び幸せが訪れる」



「地域での望むくらしの実現」を目指す

強度行動障がいを持つ方の生きづらさを軽減するため、それぞれの特性に応じた支援・環境の再構築を行う。

「セーフティーネット」の役割を果たす

地域生活が困難となった方を一時的に受け入れる。

①コンセプト・理念（L o h a s）

のぞみの郷高社「Lohas（ロハス）」は入所施設だが、
強度行動障害状態の方、強度行動障害になるリスクの高い方を
「地域から隔離しない」＝「共生社会」のための地域資源である



Lifestyles Of Health And Sustainability

①コンセプト・理念（L o h a s）



地域での生活

「短期入所」

地域で生活されている強度行動障害状態の方が地域生活を継続するためのレスパイト機能

※望まない入所を防ぐ

「レスキュー」

地域生活継続のため
フォーマル・インフォーマルサービスを駆使しても、地域生活の継続が困難な場合、緊急の受け入れ先(入所)として機能

※ニーズで無いに近い形で入所であると理解

「トリートメント」

レスキューとなった利用者の強度行動障害状態(二次障害)の軽減を目指す機能

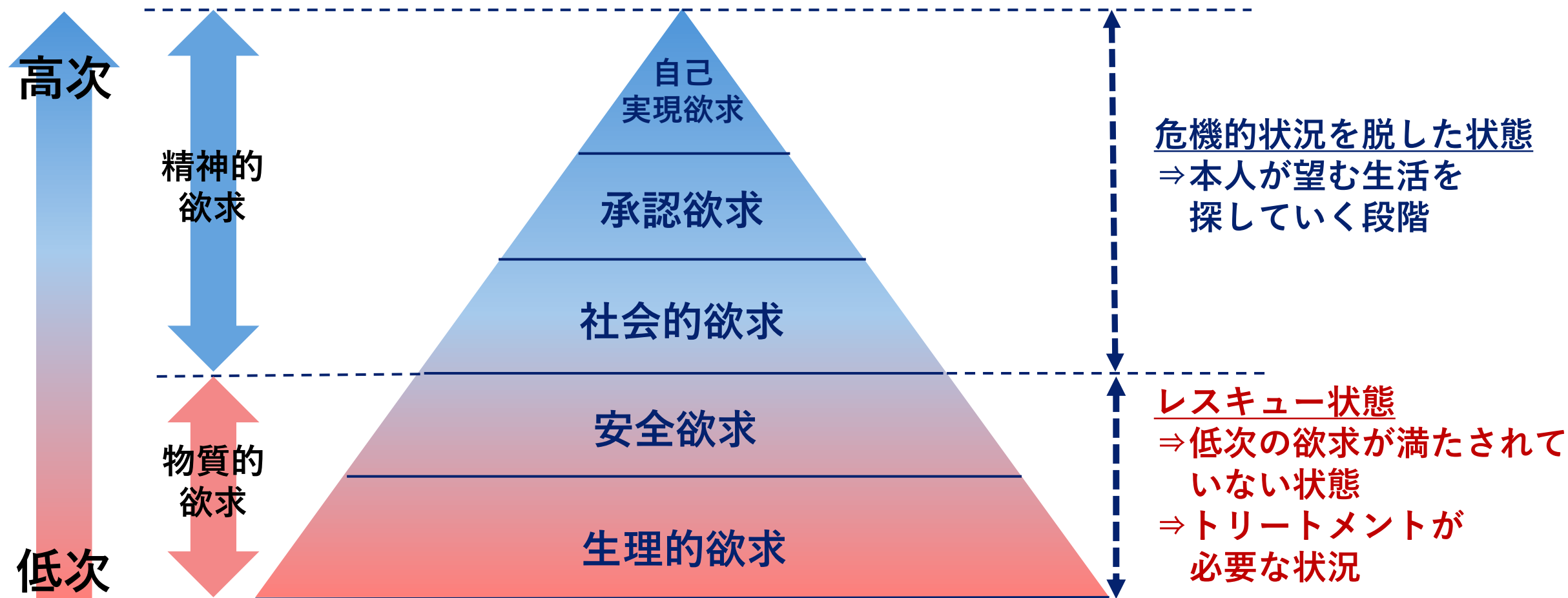
※国から示されている科学的根拠に基づく支援を基本とし、実証性・再現性・客観性のある支援を意識

「地域移行」

トリートメントされた利用者の地域移行を前提としている

※原則2年間という期間の中で支援・地域移行を行う。この2年間は再び地域生活を再開する為の準備期間

①コンセプト・理念（L o h a s）



②環境の工夫（すずらん）

【職住分離】

生活エリアと活動エリアが区切られた構造

【人刺激の軽減】

支援員や他の利用者との接触を最小限にした構造

ー建物の特徴ー

高い天井や窓

吸音性 防汚性 クッション性のある素材

視覚支援および余暇時間の充実を図るためのスマートテレビを設置

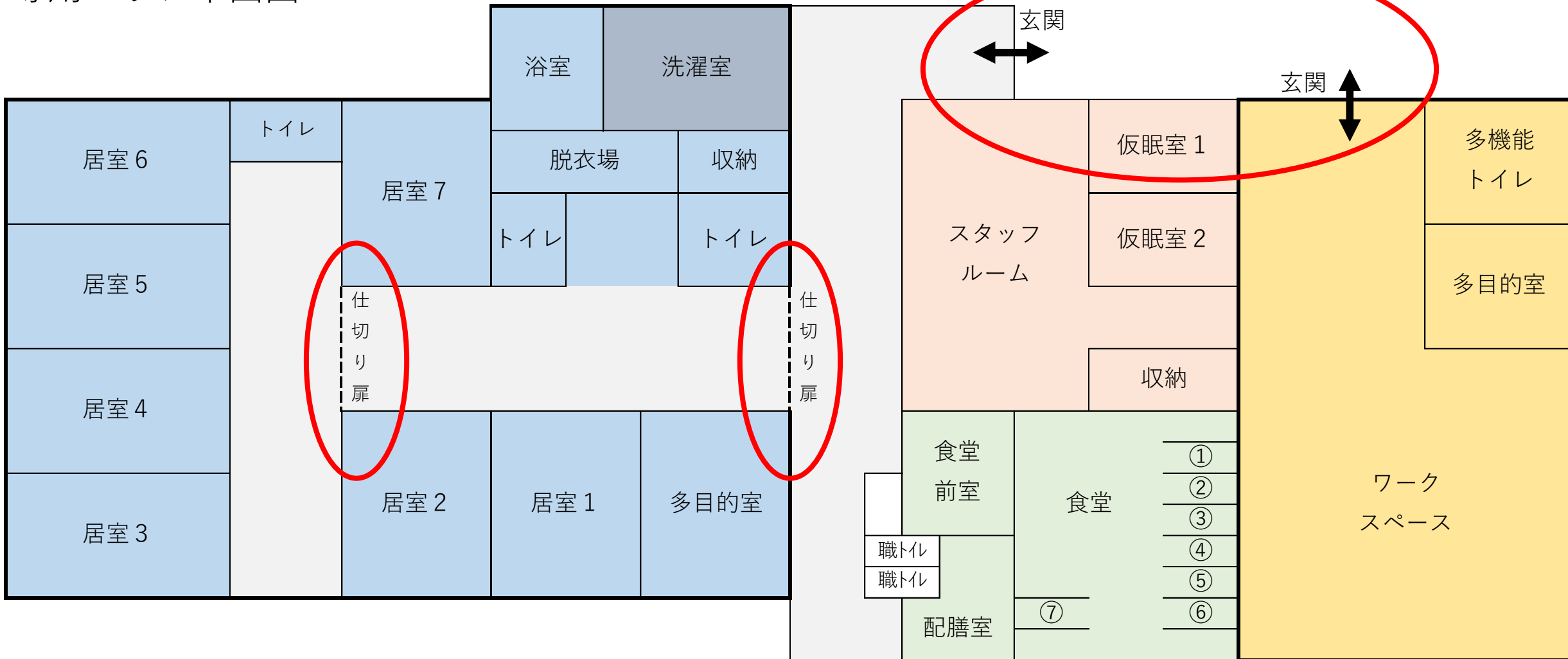
多彩なレイアウトが可能な活動エリア

居室扉の蝶番強化 開き戸式 トイレ水が裏から止められる



②環境の工夫（すずらん）

専用エリア平面図



②環境の工夫（すずらん）



高い天井や窓
防汚性 クッション性のある素材
居室のスマートテレビ



多彩なレイアウトが可能な
活動エリア



②環境の工夫（L o h a s）

Lohasには**3タイプの部屋**がある。（入所用居室7床 短期入所用居室4床）

Aタイプ・・・個別風呂・個別トイレ・外直通の玄関 ≡ アパートのようなイメージ

Bタイプ・・・個別トイレ・外直通の玄関 ≡ 動線配慮がされたGHのようなイメージ

Cタイプ・・・共有風呂・共有トイレ ≡ 一般的なGHのようなイメージ

①強度行動障害が軽減する環境探し

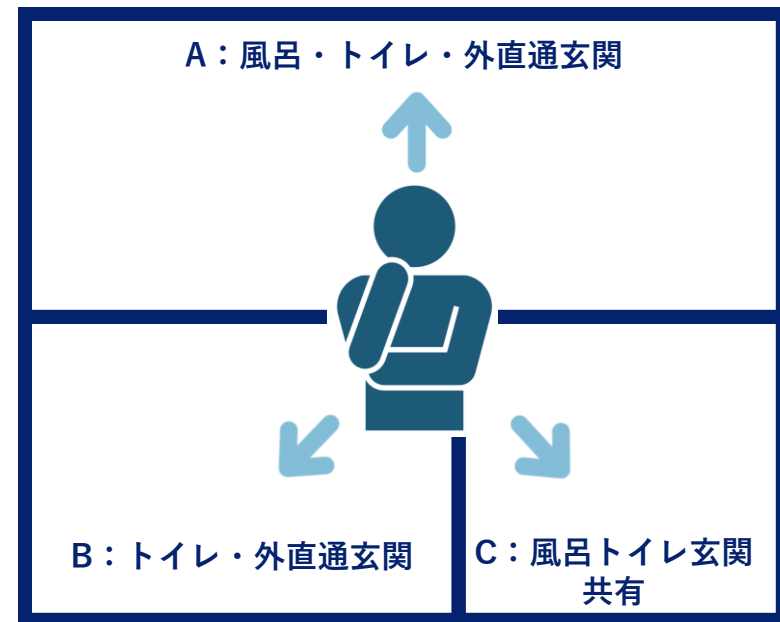
（ICFにおける環境因子が活動に大きな影響を与えるため）

②本人の状態や意思表出を確認しながら様々な居室の体験

（トリートメント後の意思形成支援のきっかけとして）

居室の備品や作りはなるべく**既製品や再現性のあるもの**を意識

⇒ 「Lohasと同等の設備でないとダメ」をなくしたい。



③コストとパフォーマンス（すずらん）

コスト

人件費

- ・ 人材の確保
- ・ 人材育成
- ・ 研修教育費

環境設定・調整

- ・ ハード面の修繕費
- ・ 備品調達

パフォーマンス

支援の充実

利用者の社会参加 隔離否定 支援の質・量の充実に繋がる

③コストとパフォーマンス（L o h a s）

【コスト】 現在入所者3名 短期入所利用者2~3名平均

職員の配置 朝7:00~9:30 夕15:30~19:30

例) ご飯 ⇒ 持っていくだけ
歯磨き ⇒ 仕上げ磨きだけ
入浴 ⇒ 週に一回介助に入るだけ

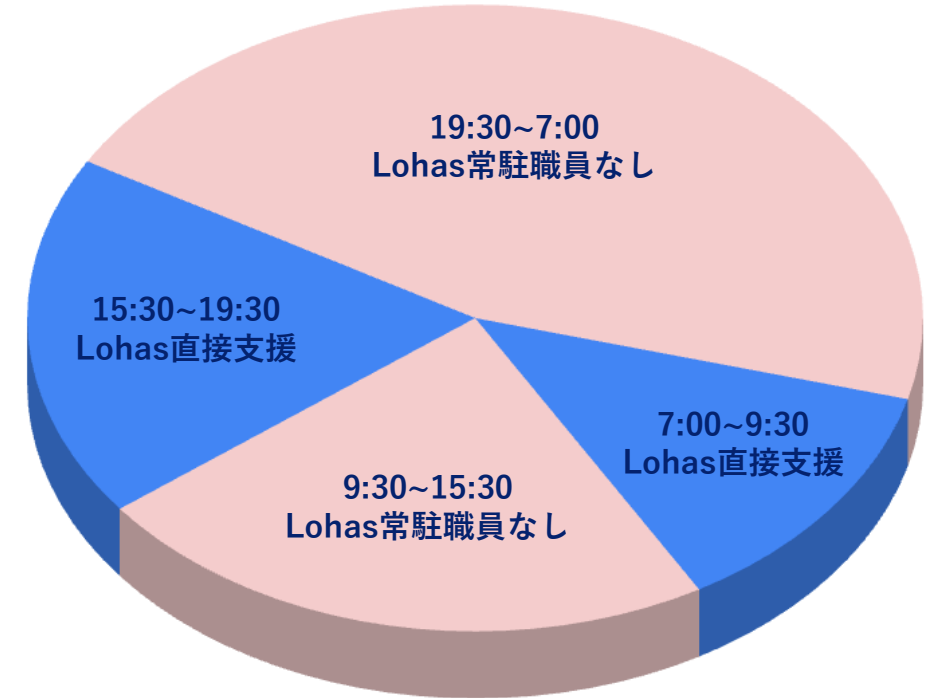
※1日で見ても、利用者様一人あたりの
直接支援コストは10分程度の方が多い。

※再現性のある環境調整・構造化、本人の強みにフォーカス
⇒必要最低限の依存（支援）⇒ 望む生活に繋がる

※平日の昼間は日中事業所に通所していただく。（※コストカットが目的ではない）

※休日昼間と夜間も支援者は常駐せず、入所本体支援者がモニター（SOSの音を拾う）で把握

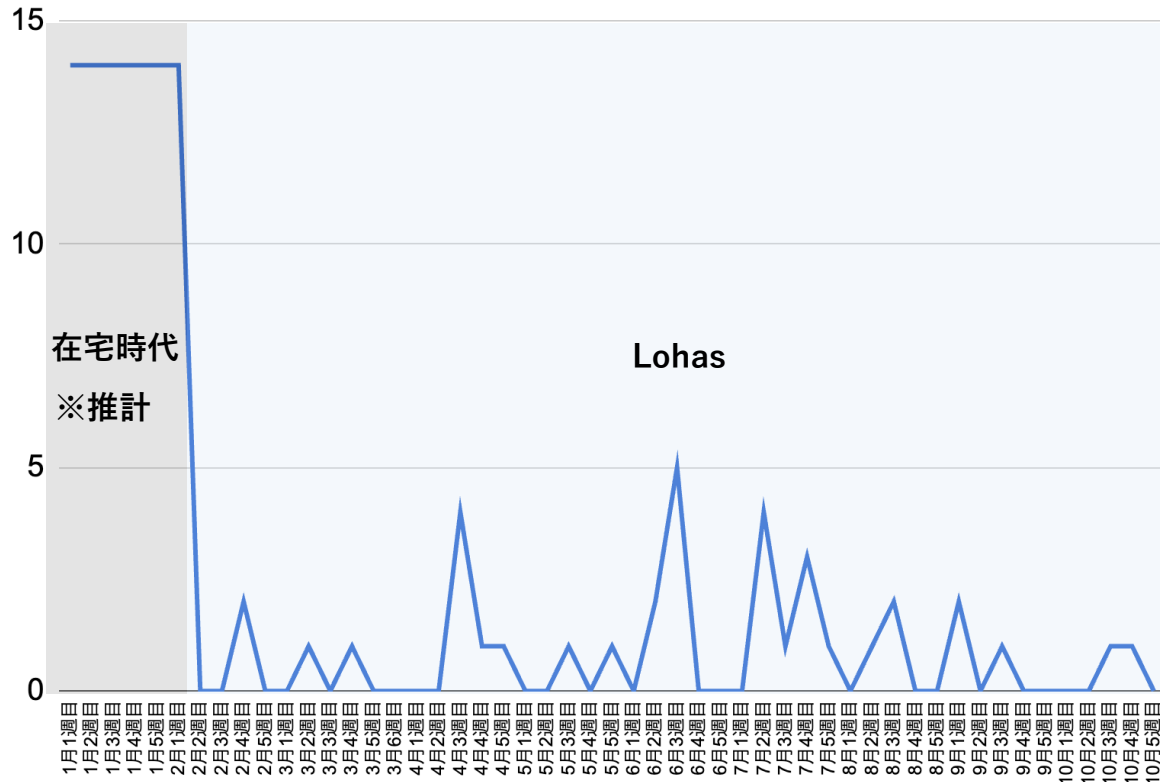
※必要に応じて集中支援を行う。（PDCAサイクルの高速回転にコストをかける）



③コストとパフォーマンス（L o h a s）

【パフォーマンス】 ※Tさん（22歳 男性 A1 区分5 行動関連項目点数18点）の事例

週ごとにおける課題行動の推移



- ・在宅生活には1日2～3回ほど(家族談)表出していた課題行動は、**Lohasに環境を移した後、大きく頻度が低下した。**
- ・Lohas入所後で課題行動の**表出頻度が高くなった際は、集中支援**を行い、ある程度効果が見られている。
- ・時折、課題行動は表出しているが、本人に合った環境のアセスメントは進んでおり、**レスキュー状態は脱したと関係者間で確認された。**
- ・現在はAタイプの部屋（風呂・トイレ・玄関付き）で自身の力を活かし生活できていることから、**アパートタイプのGH体験（本人の意思の確認）の話が進んでいる。**

④地域との連携（すずらん）

現在の取り組み

関係者会議の開催

支援状況等、情報の共有を図る。

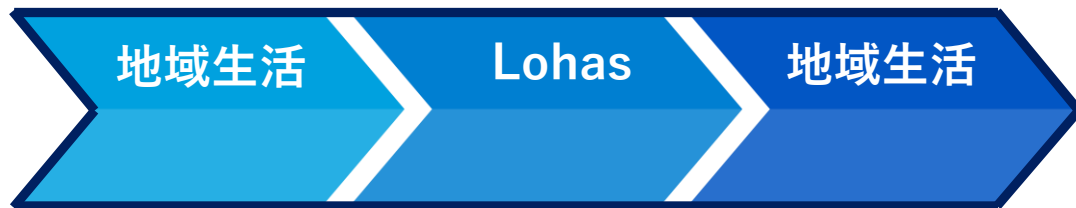
外部に向けた情報発信

各圏域の自立支援協議会等へ出向いて話をする。

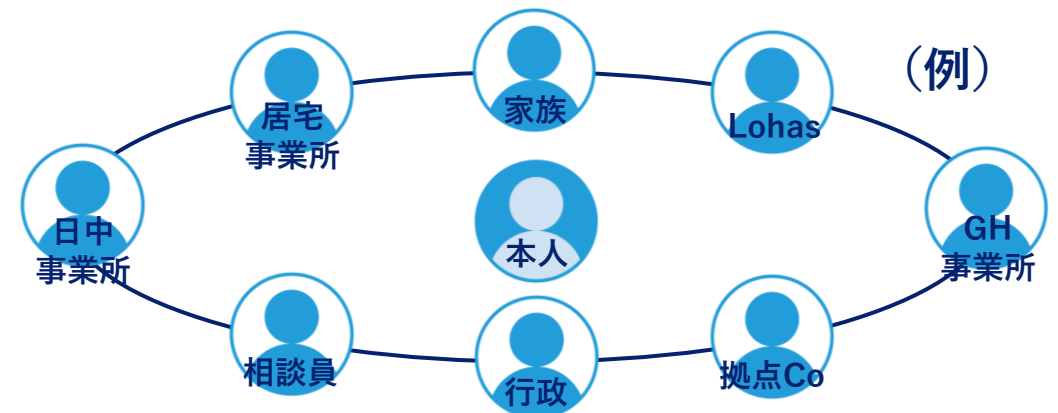


④地域との連携（Lohas）

- ・ Lohasに入所された利用者さんの関係者と頻繁（月1回）にモニタリングを実施し、本人の状態と一緒に確認している。
関係者には、地域移行後関わる事業所など（日中事業所や居宅事業所、拠点Coなど）も最初の段階から入ってもらう。
トリートメント状況をチームで確認し、本人の意思を確認していく。
GH体験などを行い意思決定支援を進める（意思形成支援・意思表出支援）
- ・ 意思決定支援の評価（モニタリング）をチームで行いながら、本人の意思を尊重した地域での暮らしを本人中心支援で考えていく（あくまで**Lohasは本人を支えるチームの一員**）



切れ目のない支援を目指す！



⑤持続可能な形に向けて



外部資源 コンサルテーション

人材確保

すずらん

人材育成

標準的支援の構築

支援の
アップデート！



本人の望む暮らし

地域

⑤持続可能な形に向けて（L o h a s）

標準的支援（環境へのアプローチ）を軸に支援する

環境設定(特性に配慮した環境)で課題行動の予防 ⇒ 「人」で予防するのではない
強みを増やす、活かす ⇒ 不完全でも、本人ができることに手を出さない
※一時的な集中支援のコストは未来への投資！

※強行支援は肉体労働ではなく知的労働！

通常の仕組み（地域生活支援拠点等など）を機能させ地域で当事者を支えていく

※レスキュー状態（地域生活破綻）になってしまう方を一人でも少なく！

Lohas（強行対応棟）が丸抱えするのではなく、Lohasに入所しない地域に！

基本に立ち戻り、ICFの考えを大切にしていきたい！